

〔類聚名義抄〕二聖舒政反

〔伊呂波字類抄〕人倫聖生而通也

〔萬葉集〕三太宰帥大伴卿讚酒歌

酒名乎サケノナヲ聖跡ヒシトリ負師オウセン古昔イニシヘノホキヒ大聖オホホキヒ之言コトノ乃宜ヨロシサ左

〔倭訓栞〕前編二十五ひじり 日本紀に聖字をよめり、万葉集に日知とかけり、日徳を知しめす聖

天子の稱也、又大人をもよめり、西土にも天子を聖といへれど、我邦日知の意は、西土と異なり、天

つ日嗣しろしめす皇孫の尊を申奉る也、中万葉集に、酒の名をひじりといひしとよめるは、魏

の徐邈が故事に、醉客謂清者爲聖人、濁者爲賢人と見えたり、

〔古事記〕序神倭天皇武經歷于秋津島、化熊出爪、天劔獲於高倉、生尾遮徑、大鳥導於吉野、列禦攘賊、

聞歌伏仇、即覺夢而敬神祇、所以稱賢后、

〔萬葉集〕一過近江荒都時柿本朝臣人麻呂作歌

玉手次タマダ畝火スキウチ之山ノヤマ乃ノ檀原カハラ乃ノ日知ヒシ之御世ノミヨ從ヨユ略

〔日本紀〕竟宴和歌集下得豐玉姬命 備中權守從四位下藤原朝臣俊房

奈美遠和介、倭我比能毛度遠、多都禰古之、毗志利濃美與能於夜仁、佐利藝留、

〔日本書紀〕六垂仁二年中略一云、御間城天皇之世、額有角人、乘一船泊于越國、飯浦、故號其處曰角鹿

阿利叱智干岐傳聞日 九十九年七月戊午朔、天皇崩於纏向宮、中田道間守於是泣悲歎之曰、受

命天朝、遠往絕域、萬里踏波、遙度弱水、是常世國、則神仙秘區、俗非所臻、是以往來之間、自經十年、豈期

獨凌峻瀾、更向本土乎、然賴聖帝之神靈、僅得還來、今天皇既崩、不得復命、臣雖生之、亦何益矣、乃向天

皇之陵、叫哭而自死之、

〔日本書紀〕十仁德十年十月、甫科課役、以構造宮室、於是百姓之不領、而扶老攜幼、運材負簣、不問日夜、竭